

つ の 受賞者《築野運輸株式会社》

＜トラック大型化による効率的な輸送＞

- ・輸送手段を 10 トンタンクローリー車から 20 トンタンクコンテナ積トレーラーにシフトすることにより、一度の輸送量を増やし運行回数を減らすことで、平成 19 年度と比較して、軽油を年間 65KL 減量、CO₂ 排出量を年間 169 トン（34%）削減。
- ・全車両にデジタコを装着し、また、運転手全員は、安全運転・経済運転の評価が A ランクである。

1. 築野運輸の環境への取組み

築野運輸株式会社は、昭和 45 年に一般区域貨物運輸事業の許可を取得し、築野食品工業株式会社の配送部門より設立。自動車分解整備事業の認証修理工場・自家給油設備を有し、親会社である築野食品工業とのパートナーシップによって合理的な配送が可能であることから、自社工場間の輸送を大型化することを始めました。

また自社の整備工場、自家給油設備があることで、エンジンオイル・黒煙・燃費等の管理が比較的容易に行えることから、積極的に環境保全活動の推進に取り組むたいと考えています。



（自家給油設備）



（整備工場）

① 「トラック」を大型化

築野食品工業では、埼玉県より約 4820 トン/年（平成 24 度実績）、兵庫県より約 7720 トン/年（平成 24 度実績）の植物油を和歌山県まで輸送しています。

平成 18 年に埼玉県の工場が稼働を始めた頃は約 1350 トン/年の輸送でありましたが、稼働が本格化し現在では 3 倍以上の輸送量に達しました。

そこで各工場間を輸送しているタンクローリーを大型化する取組みを始め、車両大型化に伴い 2 台の 10 トン積載タンクローリーをスクラップとし、20 トン積載できるトレーラーを 2 台導入しました。

② 兵庫工場での設備の変更

車両を大型化するには兵庫工場の荷役場に問題があり「10 トン積載車は進入できるが 20 トン積載トレーラーは進入できない」状況でした。

植物油脂（液体）の荷役はタンク貯蔵設備より行うため、狭い場所から広い場所への荷役場の変更は、その距離から新たに貯蔵タンクを設置することが必要でした。

植物油脂は消防法の危険物にあたりますので新しく貯蔵タンクを設置するには、保安距離・構造・設備等の基準をクリアする必要もありましたが、本社からの要請もあり、大きな問題もなく貯蔵タンクを新設することができました。

③ デジタコによる経済運転の管理

デジタルタコグラフでの運転評価は大きく分けて「安全運転」と「経済運転」の二つに分かれています。又、安全運転、経済運転それぞれに評価基準があります。

経済運転評価基準

● 速度オーバー回転
● 速度オーバー時間
● エンジン回転オーバー回転
● エンジン回転オーバー時間
● 急発進回数
● 急加速回数

総合得点評価

Aランク・・・90点以上
Bランク・・・80点～89点
Cランク・・・60点～79点
Dランク・・・40点～59点
Eランク・・・39点以下

以上の評価も併せ、環境保全活動の一環であるエコドライブ推進活動・環境教育を行い、安全運転・経済運転ともに運転手全員がAランクとなっています。

2. 取組みの成果

車両大型化により埼玉⇔和歌山の輸送ではCO₂の削減率が、始めの2年で34.8%・33.81%（対19年度）となりましたが、平成23年の東北大震災の年度は生産が急増したため輸送回数が増え19.28%と落ち込みましたが、現在では30%台に回復しています。

軽油は平成21年度～24年度間の平均で年間65KLの減量となりました。

今後は、「対前年度」での削減率で目標をたて、継続して環境負荷軽減に努めてまいります。



築野運輸株式会社
代表取締役 社長
築野 卓夫

〒649-7121

和歌山県伊都郡かつらぎ町丁ノ町
2222-1

電話 0736-22-6727

URL <http://www.tsuno.co.jp/j/02/01/07/01.htm>

築野運輸(株) 環境方針

私たち築野運輸株式会社は、法令を遵守し、事業活動において紀ノ川の豊かな自然環境と地球環境の保全を目指し、資源の削減・排出物の適正管理を推進し、地域の発展に貢献するとともに自然と調和した事業活動を行い、人と環境に優しい企業を目指します。



(コンテナタンクトレーラー)